

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	仙台市なのはなホーム		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 3月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 2月 20日		～ 2026年 3月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々こどもの発達について保護者と話ができ共有することができる	月1回の保護者のつどいは継続し勉強会の他、次月の行事や予定などについて丁寧に説明することに取り組んだ。また日々保護者と話しをし保護者の思いやこどもの状況を共有しながら、話しやすく相談しやすい雰囲気や信頼をもらえるよう取り組んできた。	保護者の気持ちや相談事をできるだけ早く気づき対応していけるよう、日ごろからコミュニケーションを大事に信頼をもらえるよう向き合いたい。
2	保護者同士のつながりが作りやすい環境がある	今年度から、在園児保護者と卒園して1年目の児保護者が交流する会を開催してきた。内容や回数など保護者にアンケートを取り次年度も継続していく。親子分離後に過ごす母の部屋での過ごし方の不安や戸惑いなどへは安心して過ごすことができるよう保護者の気持ちを聞きながら取り組んできた。	日々在園児保護者の気持ちを聞きながらつながりを作ることを大事にしていきたい。家族参加や父親中心の行事などを引き続き開催し父親やきょうだいや祖父母なども含めて参加できる行事を継続したい。また卒園児保護者との交流の機会を次年度も引き続き開催し、卒園して2年目以降の卒園児も参加できる機会も作り進めていきたい。
3	児童発達支援センターの地域支援について、地域相談員の周知が広まり相談が増えている	地域の親子向け定期的な遊びと相談の場(ぞうさん広場)を開催してきた。ぞうさん広場は参加する親子は少人数であったが保護者が安心して子育てしていけるようこどもの様子を共有しながら保護者の話を聴きともに考え、また関係機関とつながりながら取り組んできた。児童館での遊び場は楽しみしている親子も増え相談もしやすい雰囲気となっている。	ぞうさん広場は2か月に1回の開催であったが、次年度は月1回の開催としていく。出会った親子が遊びに行く場に困ったり、相談がある親子が来る場所なので、毎月会える場を作り子育ての不安や心配に少しでもこたえていきたいと考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	体制の充実	児童数が減少しており体制はとってきたが、正規職員が少ない分、職員一人当たりの普段の仕事量が増え余裕がない状況になりやすかった。保育士の募集は継続してきたが、募集も少なく採用まで至らないことが多かった。	採用活動は継続し余裕が持てる体制を作るよう努める。職員全体で体制を整えながらコミュニケーションを深め一丸となって取り組むたい。保護者との日々のコミュニケーションを大切にしながら信頼してもらえる関係を作っていけるよう努めたい。
2	タイムリーな情報共有と対応	伝えるタイミングを逃したり、職員全体への周知が遅くなることなどタイムリーな報告や対応にならないことがあった。職員が不在時の周知が十分ではなかった。	各々が報告、連絡、相談、確認を意識して取り組む。速やかに繰り返しになってもいいので伝えあっていく。また情報の内容を精査し対応を検討していく。
3	働きやすい職場作りへの業務改善	行事計画はあるものの、体制上分担して行う仕事量が多くなり行事前の超勤は多くなっている。有給休暇の取得は前向きな考えにはなっており、事前に取得を申し出るようにしたが体制上後半は取りにくさがあった。	行事計画とともに他の会議や研修の計画と合わせて計画を作成していきたい。有給休暇の取得は安心して休めるという体制は必要だが、職員全体で休みを取ることを前向きにできるよう有給休暇取得の計画を再度取り組む。